

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577100302		
法人名	社会福祉法人慈光福祉会		
事業所名	グループホーム太陽の家		
所在地	山口県大島郡周防大島町久賀5377-1		
自己評価作成日	令和3年8月2日	評価結果市町受理日	令和3年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海も山もあり自然環境に恵まれている。安心・安全にそしてホームをご自分の居場所として楽しく生き活きと暮らし て頂けるように職員で意見を出し合い支援している。また、季節を感じていただけるようにホーム内には飾りを工夫 している。入所者様の個別ケアに取り組む『希望を叶え隊』として年に1回、入所者様の誕生日に誕生プレゼントと して、入所者様からの希望を叶え喜びや笑顔がたくさん見られるようになり、ホームでの生活満足度が向上し、楽し みのある幸せな生活がおくれるように支援している。また1年に1回、家族会を行っており家族との交流をもってい る。隣接地には山中クリニックがあり週1回の回診も含め医療面でも充実して安心でいられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、事業所の理念である「太い絆、陽気な笑顔、のんびり過ごせる、我が家のように」を常に意識され、利用者 がいつも安心して自分の居場所として過ごせるように支援しておられます。食事は、法人からの配食を利用され、 年1回の嗜好調査、毎月の給食会議で利用者の好みや希望を伝えておられます。季節の行事食や毎月の誕生日 食、2ヶ月毎のランチ食の他、毎月の喫茶行事では、チーズケーキやプリン、桜餅、ぜんざい、焼きいも、杏仁豆 腐、かき氷、アイスコーヒーなど季節のおやつを楽しまれ、利用者と職員が一緒に月2回のおやつづくり(たこ焼き、 クレープ、桜餅、ホットケーキ、パンパロア、ミックスジュース、チョコレートフォンデュなど)をされるなど、食べることを 楽しめる工夫しておられます。コロナ禍で家族や地域の人との交流に制限のある中、毎月季節の花や自宅周 辺、海岸線など車窓からのドライブに出かけられたり、併設施設の誕生会での職員の出し物、毎月のレクリエーショ ン大会など、楽しみごとや気分転換の支援を工夫されて、支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は理念を共有し、理念にある「我が家のように」を日々のケアの指針として実践に繋げている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、毎朝の申し送りやミーティング時に理念を共有し、利用者とのコミュニケーションを大切にし、理念を共有して日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で自治会に加入している。 新型コロナウイルス感染予防の為地域との交流は出来なかったが法人の併設施設で開催している新年会、誕生会等の行事には参加している。	法人全体で自治会に加入している。今年は、恒例となっている地域の行事や併設施設で行っていた季節行事、ボランティアの来訪が新型コロナの影響で殆んど中止となり、地域の人との交流ができていない。利用者は、併設施設で開催している新年会や毎月の誕生会に参加して、施設の入居者や職員と交流している他、施設周辺を散歩したり、敷地内にテーブルを出しておやつを食べている。地域住民からは、新聞紙の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けては活かしていない		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を配布し、職員からの意見を聞き、管理者がまとめている。目標達成計画を作成しているが具体的な改善にはいたっていない。	管理者は、評価の意義を職員に説明し、全職員に自己評価の用紙を配布して、職員からの意見を管理者がまとめている。前回の評価をうけて、目標達成計画をたて、外部評価を活かした取り組みや職員会議を通した内部研修の開催の実施に向けて取り組んでいる。	・評価を活かした取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナ感染予防の為運営推進会議は開催出来ていないが、資料配布し質疑応答や意見交換をしている。	会議は2ヶ月ごとに実施している。新型コロナ感染予防対策として毎回書面での開催とし、会議のメンバーには、利用者の状況や待機者状況、行事の予定や報告、職員の異動状況、ヒヤリハット・事故報告等についての文書を送付し、質疑応答や意見を書面で受けている。参加者からの質問や意見に対しては、回答をまとめ、議事録を届けている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者とは、直接出向いたり、電話で相談して助言を得たり、情報交換しているなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報を交換し連携を図っている。	町担当者とは、直接出向いて更新の手続きを行ったり、電話で相談し助言を得るなど、日頃から協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法人内研修で学び、身体拘束について理解しており、拘束や抑制をしないケアを実践している。	職員は、法人内の身体拘束や虐待についての研修会に参加し、2ヶ月ごとの運営推進会議時に身体拘束等適正化委員会で話し合い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックがあった場合は、職員間で注意し合ったり、管理者が直接指導している。玄関は施錠しておらず、外出したい利用者がいる場合は、職員と一緒に出かけるなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が防止に努めている。苑内研修も行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、制度を活用する機会はない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は利用者や家族等の不安や疑問点を聞くようにし、十分な説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受け付け体制や処理手続きについて家族に説明している。第三者委員を設置し、意見箱を玄関に設けている。毎月の事業所だより送付時には担当職員が近況報告と写真添付し年3回手紙を送っている。ケアに関する要望などあるが運営に反映するまでの意見は出ていない。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に契約時に説明している。面会時や電話などで家族からの意見や要望を聞いている。玄関には、意見箱を設置している。毎月、写真付きの事業所便りを送付し、3ヶ月毎に担当職員が近況報告を行って、家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。ケアに関する要望などには、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日々の業務の中で職員の意見を聞き、法人の主任会議で職員からの意見を代表者に伝えている。職員からの意見で、行事や利用者の状況に応じて勤務体制を変更し、反映させている。	管理者は、毎朝の申し送り時や月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも職員の話や意見を聞くよう努めている。業務改善や勤務時間の変更など、職員からの提案や意見はその都度話し合って運営に反映させている。意見の内容によっては、毎月開催される主任会議で代表者に伝えている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は他業務で多忙なため勤務状況の把握は出来ていない。管理者がすべてにおいて把握している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は法人から該当者に参加依頼があり勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修が年2回あり、処遇、身体拘束、認知症などのテーマに学んでいる。内部研修はGH職員会議通して実施している。	外部研修は、法人が一括管理しており、該当者があれば参加への依頼があるが、昨年は、新型コロナの影響で参加はしていない。代表者による接遇の研修と年2回の法人研修があり、身体拘束、虐待、感染症、褥瘡予防、事故防止をテーマに学んでいる。内部研修は、虐待についての事例検討を行っている。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県グループホーム協会の研修や岩柳地区の交流会があるが、日々の業務の為出席できる回数が少ない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からも話を聞き、困っている事や不安な事などに耳を傾け、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方から話を聞き、困っていること、不安な事や要望等に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族としっかり話しをして、一番必要としている支援を見極めている。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、話をしたり、いろいろな習慣を教わったりしながら、暮らしを共にする家族のような関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ感染予防の為窓越しやオンライン面会で様子を話している。又電話や手紙などで家族との絆を大切にしながら共に本人を支えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為制限ありの面会で馴染みの人との交流は出来ないがドライブ等に出かけ外との交流に努めている。	家族とは、オンラインを活用しての面会や窓越しの面会をしている他、年賀状や暑中見舞い、手紙や電話での交流を支援している。自宅周辺や海辺をドライブして、車中から懐かしい景色を眺めるなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食堂で過ごすときは自由に座ってもらい、利用者同士が助け合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係を絶つことなく、経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の言葉や想いをケース記録に記録し、想いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に相談し本人本位に検討している。	利用開始前に自宅訪問して本人や家族に聞き取りした情報をアセスメントシートに記入し活用している他、担当職員が6ヶ月ごとにアセスメント要約表を記入している。日頃の関わりの中での利用者の言葉や思いをケース記録に記録し、職員間で意見交換を行い、利用者の思いや希望の把握につとめている。把握が困難な場合は、家族に相談したり、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに、その方がこれまでどのような生活を送ってきたかがわかるようにしている。また本人との日常の会話の中からこれまでの生活歴の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状を把握し毎朝利用者の表情や状態を察し可能な力を発揮できるように支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者生活状況、ケース記録、日別評価表を作成し、家族には事前に要望を聞き、利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心に担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎に中間の見直し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合はその都度見直し、現状に即して介護計画を作成している。	担当職員と計画作成担当者を中心に、月1回サービス担当者会議を開催し、入居者生活状況、ケース記録、日別評価表を参考に、本人や家族、主治医、看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎の中間評価、6ヶ月ごとの見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子を記録し、職員間で情報を共有している。またその情報をふまえて職員会議で介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにその都度対応できるように心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゆる体操、読み聞かせ会、折り紙教室に毎月ボランティアに来てもらっていたがコロナ禍の為職員が行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回訪問診療がある。併設の特別養護老人ホームの看護師と協力関係を築いている。緊急時と夜間はかかりつけ医が24時間対応している。他科受診は家族の協力を得て支援し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。週に1回の訪問診療があり、看護師が同行している。他科受診は家族の協力を得て事業所が支援している。日頃から併設施設の看護師の協力を得ており、昼間の緊急時にはかかりつけ医及び看護師の指示を仰いでいる。夜間は、夜勤者が管理者への報告を行うと共に、かかりつけ医の指示を受け、救急車を依頼するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新たに外傷が見つかったり、体調の変化が見られたりしたときはすぐに隣接の特養の看護師に相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院側に利用者の状態を説明している。また、その後はお見舞いに行ったりして回復の状態を知り、退院支援に結びつけている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について家族に説明している。重度化した場合は、早い段階で家族、かかりつけ医と相談し、医療機関への入院や併設の特別養護老人ホームへの移設を支援している。全職員で方針を共有している。	契約時に、重度化した場合や終末期における事業所の対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族、かかりつけ医と相談し、医療機関への入院や併設の特別養護老人ホームへの移設を含めて、方針を決めて全職員で共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書、事例記録に記入し、職員会議で検討し、法人の事故防止対策委員会で報告して再発防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練は実施できていない。	事例が発生した場合は、対応した職員がヒヤリハット記録、事例記録に記入し、他の職員には回覧している。その後は、職員会議で検討して話し合うと共に、毎月開催している法人の事故防止対策委員会に報告し、再発の防止に努めている。事故発生への対応として、応急手当や初期対応のマニュアルの作成を検討しているが、具体的な訓練は実施できていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の併設施設と合同で年2回昼夜を想定した火災時の非難、通報、消火訓練、年1回風水害を想定した非難訓練を実施している。運営推進会議で地域の協力について話しあっているが、協力体制を築くまでには至っていない。	法人の併設施設と合同で年に2回、昼夜を想定した火災時の避難訓練、消火訓練、通報訓練と年に1回風水害を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で災害時の地域の協力体制について話し合っているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の接遇研修で学び、利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、法人の接遇研修で学び、利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。利用者の個人情報適切に保管され、守秘義務は職員間で徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話をあまりされない、みんなの輪の中に入る事を苦手としている利用者にも、寄り添い話を傾聴し、本人の希望を少しでも聞くことが出来るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が時間に追われることが多く、職員側の都合を優先してしまうこともあるが、利用者の訴えに出来るだけ早く対応できるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床後に、鏡を用意し整髪、おしぼりを用意して顔を拭いてもらっている。入浴後には、化粧水や保湿をおこない身だしなみができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の特別養護老人ホームからの配食を利用している。利用者には盛り付けを手伝ってもらい一人ひとりのペース大切に食事の支援をしている。喫茶、手作りおやつなど食事が楽しみなものになるように支援している。	三食とも法人の配食サービスを利用している。法人の栄養士が栄養に配慮した献立をたて、年に1回利用者に嗜好調査を実施し、管理者は毎月の給食会議で好みや希望を伝えている。利用者は、テーブル拭き、トレイ拭き、盛りつけ、おしぼり巻きなど、できることを職員と一緒にしている。季節の行事食(おせちやひな祭りの寿司、そうめん流し、クリスマス)や毎月の誕生日食、2ヶ月毎のランチ食がある。毎月の喫茶行事では、チーズケーキやプリン、桜餅、ぜんざい、焼きいも、杏仁豆腐、かき氷、アイスコーヒーなど季節のおやつを楽しみ、利用者と職員と一緒に月2回のおやつ作り(たこ焼き、クレープ、桜餅、ホットケーキ、ババロア、ミックスジュース、チョコレートフォンデュなど)をしているなど、食べる事を楽しむ支援を工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立による食事により栄養のバランスをとっている。さらに食事、お茶の時間に充分水分をとってもらい、あまり飲まない方には、飲みやすくなる工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをしたり、歯ブラシを手渡したり、その人にあわせた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をし、トイレで排泄ができるように自立に向けて支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を工夫して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多めにしたり、腹部マッサージをしたりと個々に応じた予防をしているが、薬に頼っている人が多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ほぼ毎日入浴しており、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。難しい利用者には、言葉かけや時間帯を工夫してタイミングを見ながら、無理強いせずに個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、毎日13時15分頃から15時30分まで可能で、午後に行事がある時は、午前10時から11時30分までの間に、一人ひとりの希望に応じて支援している。柚子湯や入浴剤を利用して入浴を楽しんでいる他、利用者のその日の体調や希望によっては、清拭や足浴、シャワー浴で対応している。入浴したくない利用者には、タイミングをずらしたり、職員を変えて言葉がけするなどの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、睡眠に乱れのある人は原因究明、対応の検討を行い、支援している。また、日中散歩やレク活動を通じて夜間の安眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、個々に応じた服薬の支援をしている。症状の変化については主治医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた個々の力を活かし活躍できる場面作りをしている(洗濯たたみ・洗濯干し・テーブル拭き・トレイ拭き・おしぼり巻き・茶碗洗い)コロナ禍ではあるが一人ひとりの活躍できる場面作りをして楽しみ事や気分転換の支援をしている。	テレビ視聴(懐メロ、演歌など歌番組、のど自慢、相撲など)、雑誌、新聞、チラシや広告、町の広報、料理本を見る、貼り絵、ちぎり絵、書道、計算ドリル、福笑い、カルタ、パズル、折り紙、言葉遊び、黒髭ゲーム、風船バレー、ボール転がし、般若心経の読経、ラジオ体操、口腔体操、ゆる体操、テレビ体操、職員が毎月アイデアを出して実施しているレクリエーション大会、併設施設の新年会、誕生会、車窓から花や景色を眺めるドライブなどを楽しんでいる。洗濯物たたみ、テーブルふき、トレイ拭き、盛りつけ、おしぼり巻き、タオル巻き、拭き掃除、モップかけなど、一人ひとりの活躍できる場面づくりを行い、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為家族の協力を得ての外出外泊、個別ケアとして誕生日に利用者の希望を聞いての外出は出来なかったが事業所周辺の散歩やドライブをし戸外に出かけられるように支援している。	事業所周辺の散歩や敷地内でのひなたぼっこ、テーブルを出してのおやつタイム、車窓からチューリップや桜、あじさいの花を楽しんだり、自宅周辺、道の駅、海岸線をドライブしたり、車中でおやつを食べるなど、利用者全員で戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいため個々に所持できない。家族より預かり、金庫に保管している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話や手紙に応える形でやりとりがスムーズにいくように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り壁面には職員と一緒に作成した季節の作品や利用者の書道の作品を飾って行事の写真事業所だよりを掲示して季節を感じられる様にしている。リビングは明るく窓を開けて換気に注意し気温や湿度にも配慮して居心地よく過ごせるようにしている。	玄関には、いつも季節の花を飾っている。リビングは広々として明るく、テーブルとイスを配置して、利用者は思い思いの場所に座って団欒している。壁面には、季節に合わせた作品や利用者の習字・折り紙の作品、カレンダー、事業所便りを飾って季節を感じられるようにしている。室内は、窓を開けて換気に注意し、気温や湿度にも配慮して、居心地良く過ごせる様に工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の横に居間があり座ったり寝転んだりくつろげるようになってるがほとんどテーブルで過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、テレビ、鏡台を持ち込み、家族の写真、自分の作品を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	使い慣れた寝具やテレビ、洋服掛け、鏡台、イス、位牌、ぬいぐるみなど馴染みのものを持ち込み、家族の写真や色紙、折り紙の作品、カレンダー、行事の写真などを飾り、居心地良く過ごせる様に工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設内部はバリアフリー、手すりがつけてあり、安全に生活が送れるようになっている。またトイレの場所がわかるように表示し、自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 太陽の家

作成日： 令和 3 年 12 月 14 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練が実施 出来ていない。	職員全員が応急手当や初期対応が出来る ようにする。	応急手当や初期対応の勉強会を定期的に行 う。	1年
2	14	内部研修が出来ていない。	内部研修を実施する。	職員会議を通して計画的な内部研修の実施を する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。